

世界のデビットカード —— 第4回・フランス

公衆電話のプリペイドカードもICカード、パーキングメーターの支払いもICカード。国策として80年代からICカードを積極的に取り込んできたフランスでは、デビットカードにも当然のようにICカードが使われています。利用者はサインではなく、端末に暗証番号 (PIN) を打ち込みます。一方で出遅れたクレジットカードの発行でも、新しい動きが出てきました。(提供:月刊「カード・ウェーブ」)

後払いデビットが人気

人口約6,000万人のフランスでは2003年末時点で、約4,760万枚の銀行カード(デビット、クレジット)が発行されています。これらすべてが統一ブランドの「CBカード」の呼称で呼ばれます。

国内の郵便局 (La Poste) や銀行など約200の機関が集まって銀行カード協会 (Groupement des Cartes Bancaires "CB"; カルト・バンケール) を設立したのは1984年のこと。以来、統一的にカード業務を推進してきました。国際ブランドのVISA、MasterCardとも、それぞれフランス国内の統括組織である「カルト・ブルー」、「ユーロペイフランス」を通じて提携しており、前出の発行枚数の9割をVISA、MasterCardのインターナショナルカードが占めています。

これらはその外見からクレジットカードと勘違いしがちですが、実態はデビットカードです。VISAカードは通常3日後、もしくは月末一括払いの「後払いデビットカード」として、MasterCardカードはJ-Debitと同じ「即時払いデビットカード」として、生活のさまざまな場面で利用されています。とりわけ後払いデビットカードの発行枚数は全体の80%を越え、市民に親しまれています。

フランスも欧米諸国と同様、カードの最大のライバルは小切手でしたが、ちょうど昨年、支払いにおける利用回数(トランザクション)の比率でCBカードが小切手を逆転しました(グラフ)。

世界中で使えるICカードへ移行中

CBでは長い間、リスクのあるリボルビング方式のクレジットカード発行について消極的なスタンスで提携カードの発行を禁じてきたため、リボルビング・クレジットカードの存在は全体の1/10にも満たない約420万枚にとどまっています(02年末)。しかし最近では、英米系のカード発行会社による市場進出を受け、消費者金融会社であるセトレム、コンフィノガ、ソフィンコの3社が、銀行



▲カルト・ブルー



▲ユーロカード/マスターカード



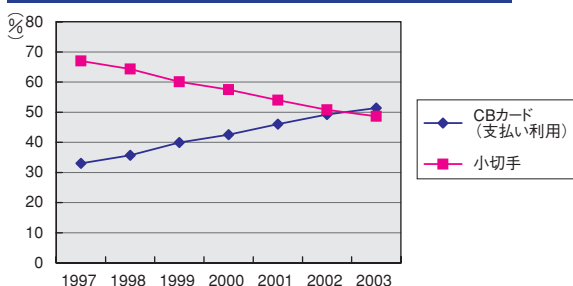
▲ICカード電子マネー「Moneo」

や流通系企業との提携カードを発行するなどの動きが活発化しています。

ところでCBカードはすべてICカードで発行されています。磁気カードからの切り替えを90年4月に開始し、92年12月には完了というスピードで実施し、当時急増していたカードの偽造被害を1/10に抑え込むことに成功しました。現在はICチップに関して、世界中で使えるEMV仕様への移行を始めたところです。

さらにフランスでは現在、加盟店手数料の問題でデビットカードがなじまないような少額販売中心の商店でも使える、ICカード電子マネー「Moneo」(モネオ)をスタートしています。こちらもCBカードに標準搭載され、03年末までに3,000万枚の発行を目標としていました。これからフランスを訪れる際には、利用者を目にする事ができるかもしれません。

CBカードと小切手の利用回数比較
(Groupement des Cartes Bancaires "CB", 2004)



新刊案内

月刊「カード・ウェーブ」

12月号

「特集 2004年カードビジネス
シーン総決算」

<http://www.c-media.com/>



日本デビットカード推進協議会

東京都千代田区大手町2-2-2 NTT DATA 大手町ビル10階

[事務局]

電話 03 (3243) 0781

Fax 03 (3243) 0782

e-mail info@debitcard.gr.jp (ご意見・ご感想等お寄せ下さい)

[ヘルプデスク]

電話 03 (3986) 7960

Fax 03 (3590) 9223

[会員・加盟店登録状況] (平成16年12月20日現在)

金融機関会員 1,870 特別会員 2

加盟店会員 172 賛助会員 117

登録加盟店 1,037

※端末設置台数 全国約21万ヶ所以上